

## 特許紹介

特 許 / 第1539987号  
発明の名称 / **廃魚処理装置**  
発 明 者 / 吉田 広人

### 〈従来技術とその問題点〉

近年、養殖中の魚が海の汚染等により赤潮が発生すると大量に死ぬ場合がある。養殖中にへい死した魚（以下廃魚という）の処理は、一般に海洋投棄、あるいは陸上で焼却等の手段によって処理していたが、前者は海洋汚染の拡大につながり実施が難しく、又、後者は廃魚に水分が多量に含まれている関係上、焼却燃料を多量に消費する問題があった。また、地中に廃棄することも考えられるが、廃棄場所に限度があると同時に、悪臭が生じやすく2次公害の心配があった。

### 〈発明の構成〉

この発明は、廃魚を丸ごと回転タンク内に投入して破碎し、これを乾燥処理することにより、廃魚を肥料として土壤に還元可能としたことにある。

図1、図2のように、回転タンクの一方向に廃魚の投入ホッパーを、他方には廃魚の処理によって得られる肥料の取出口をそれぞれ設け、回転タンク内には、温水を循環させる角形の温水管を2重構造で回転タンクと共動可能に配管する。回転タンク内に投入された廃魚は、回転タンクと共動回転する角形の温水管によって順次掻き上げられ、微細に破碎されながら、事前に投入しておいた水分調整材と攪拌混合される。この攪拌混合時、温水管内を循環する温水によって被処理物を殺菌・乾燥処理し、含水率が10%以下となった時点で、被処理物は粉末状の有機肥料となり、回転タンクを回転しながら取出口から

取出すことができるようにした。また、処理中に発生する悪臭ガスは、処理装置に付設した脱臭装置に導き、腐植土壤中に存在する土壤微生物により分解させて悪臭ガスを脱臭するように構成した。

### 〈発明の効果〉

廃魚を処理する装置は、回転タンク内に角形の温水管を2重構造に配管するという簡単な構成であるので、構造の簡素化がはかれ、しかも、角形の温水管の採用により、廃魚の破碎と殺菌・乾燥処理と、脱臭装置の併用により、処理中に生ずる悪臭ガスの回収処理とを同時に行うことができるので、廃魚の処理を効率的に、しかも、無公害で迅速確実に行うことができる。その上、被処理物は肥効の大きな肥料として土壤に還元できる利点もある。（宮地記）

### 関連実用新案

実用新案第1673763号「土壤脱臭装置」

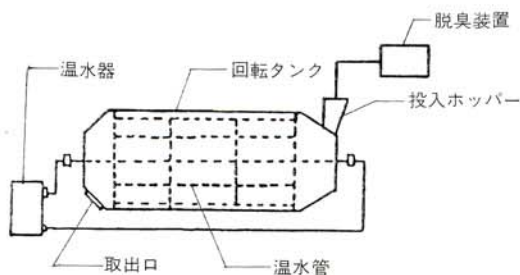


図1 / 処理装置の説明図

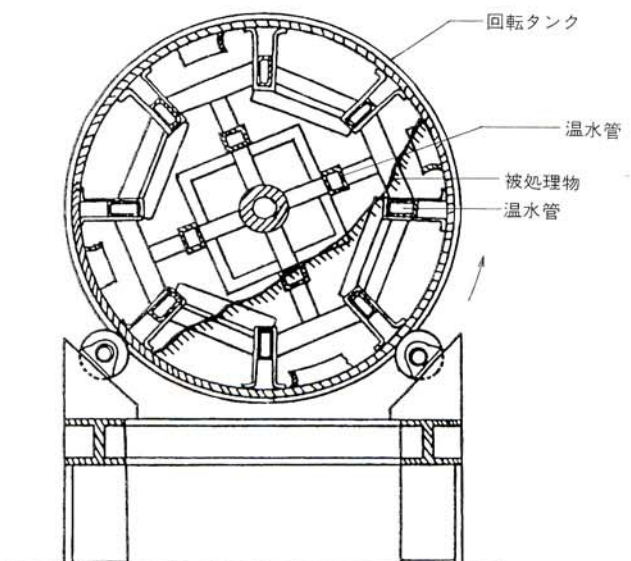


図2 / 要部縦断面図